

平成 17 年度厚生労働科学研究費補助金（政策科学推進研究事業）
分担研究報告書

厚生労働科学研究費と疾病負担との関連について

主任研究者 佐藤 敏彦（北里大学医学部）
研究協力者 星 佳芳（国立保健医療科学院）
櫻井 千裕（東京医科歯科大学）
細井 香（北里大学医学部）

研究要旨：

平成 16 年度の厚生労働科学研究費補助金の概要/各研究事業の概要（<http://www.mhlw.go.jp/wp/kenkyu/gaiyo04/02.html>）を用いて厚生労働科学研究費の疾患別研究費を算出した結果、疾患別に分配できないものが過半を占めるものの、分配できたものの中では、認知症、脳卒中、前立腺がん、肺がん、外傷の順となり、DALY を用いて算出された 2000 年度のわが国の疾病負担との関連では外傷、うつ病が疾病負担に比較し、研究費が少なく、逆に認知症、前立腺がんは疾病負担に比較し研究費が多い結果であった。これらのデータを用いて保健医療研究の優先順位付け方法につき引き続き検討を行う予定である。

A. 目的および背景

厚生労働科学研究費などの保健医療研究における研究費配分の科学的根拠として疾病負担をどのように用いるべきかの議論をする上での資料とすることを目的に、我が国における疾患別疾病負担と疾患別研究費との関連を調べる。

B. 方法

厚生労働省ホームページ・平成 16 年度 厚生労働科学研究費補助金の概要/各研究事業の概要（<http://www.mhlw.go.jp/wp/kenkyu/gaiyo04/02.html>）において、2006 年 1 月に掲載されていた全ての研究分野の研究課題名と交付決定額を参考とした。

原則として、それぞれの研究課題名にあるテーマを参考にして、どのような疾患の研究に費やされているかを分析した。また、全ての研究課題について実際に研究されたテーマの範囲を確認するために、厚生労働科学研究成果データベース（国立保健医療科学院ホームページ <http://mhlw-grants.niph.go.jp/>）において「概要版」を参考とした。疾患種別は、Cary P. GROSS

（1999:N Engl J Med Vo.340 No24）の分析を参考に、以下の 30 カテゴリに分類した。

1. 慢性閉塞性肺疾患（COPD）（慢性気管支炎と肺気腫を含む）
2. 周産期の障害（周産期、新生児、妊娠、妊婦、乳児、出産）
3. 消化性潰瘍（胃潰瘍、十二指腸潰瘍）
4. 肺炎
5. 子宮がん
6. 卵巣がん
7. 脳卒中（脳梗塞、脳出血、脳内出血、クモ膜下出血を含む）
8. 肺がん
9. 前立腺がん
10. 結腸直腸がん
11. 中耳炎
12. 子宮頸がん
13. パーキンソン病
14. てんかん
15. 喘息、気管支喘息
16. 結核（症）
17. 多発性硬化（症）

18. 肝硬変
19. うつ病
20. 外傷
21. 性感染症
22. 統合失調症
23. 虚血性心疾患
24. 歯と口腔に関する疾患・障害（う蝕、歯周病）
25. 糖尿病
26. アルコール依存症
27. 認知症（痴呆）
28. 乳がん
29. エイズ、後天性免疫不全症候群
30. その他

「概要版」の記述において、「生活習慣病」全般について研究された研究であることが確認された場合は、がん・虚血性心疾患・脳血管障害・糖尿病・高血圧を含めた（「今後の生活習慣病対策の推進について（厚生科学審議会）」）。

また、「介護」「高齢」「年金」をテーマにしているものは、慢性閉塞性肺疾患・脳卒中・パーキンソン病・多発性硬化症・外傷・糖尿病・認知症・その他を含めた。外傷を含めた理由は、転倒などによる骨折等が寝たきりになる原因となる場合が少なからず報告されているからである。また、「社会保障」をテーマにしているものは、全ての疾患カテゴリー・その他を含めた。

C. 結果

表に疾患別の DALY および研究費を示す。また、図 1～図 5 に研究費と DALY との関連の散布図を示した。

疾患別に分配できないものが過半を占めるものの、分配できたもの研究費総額では、認知症、脳卒中、前立腺がん、肺がん、外傷の順となり、DALY を用いて算出された 2000 年度のわが国の疾病負担との関連では外傷、うつ病が疾病負担に比較し、研究費が少なく、逆に認知症、前立腺がんは疾病負担に比較し研究費が多い結果であった（図 1）。

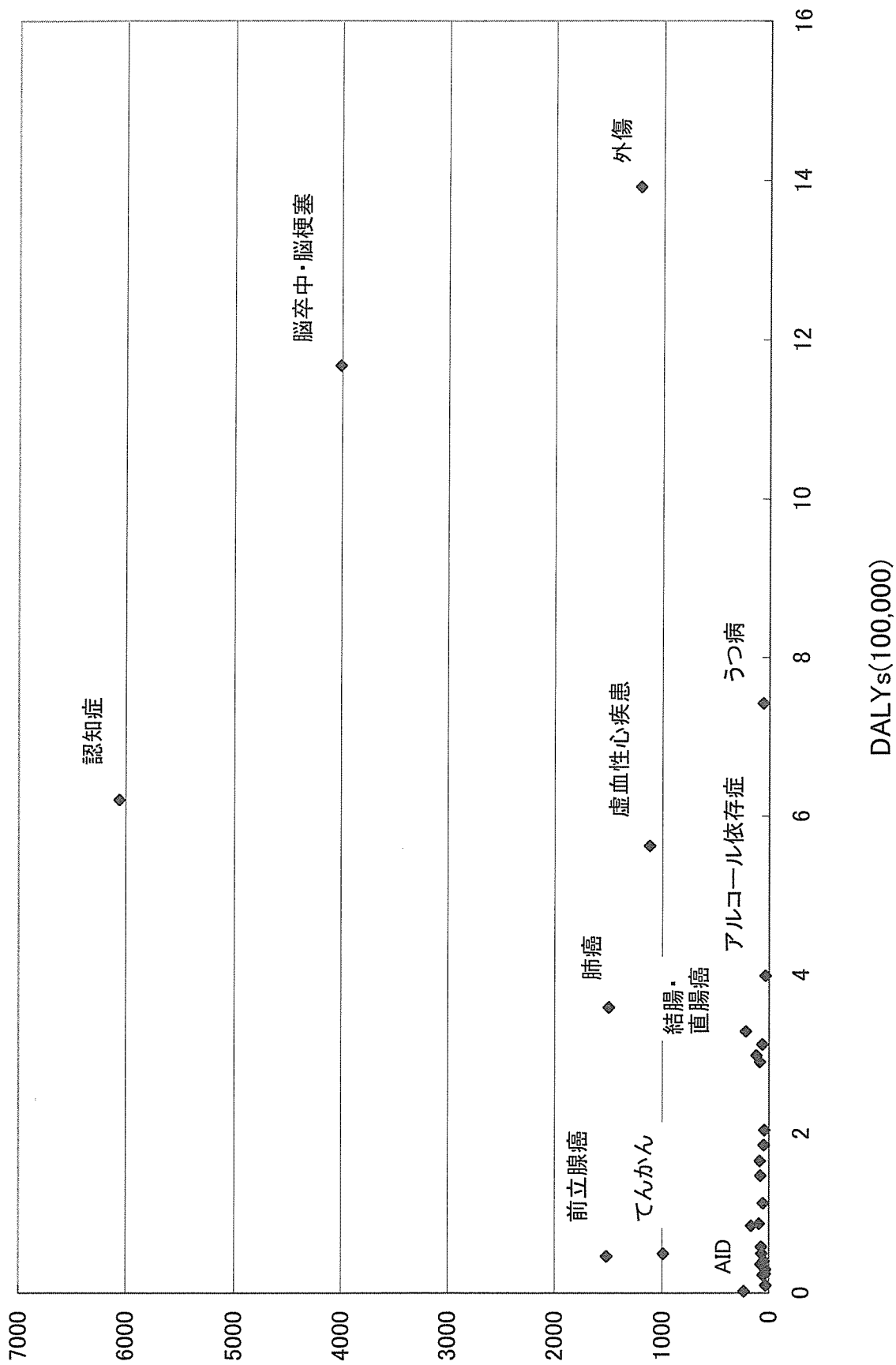
D. 考察

研究費分配には現状の疾病負担のみならず、そ

の他の要素が加味されていることがわかった。疾患別の分配方法についての再検討を含め、その他の要因の調整につき検討していく必要があると思われた。

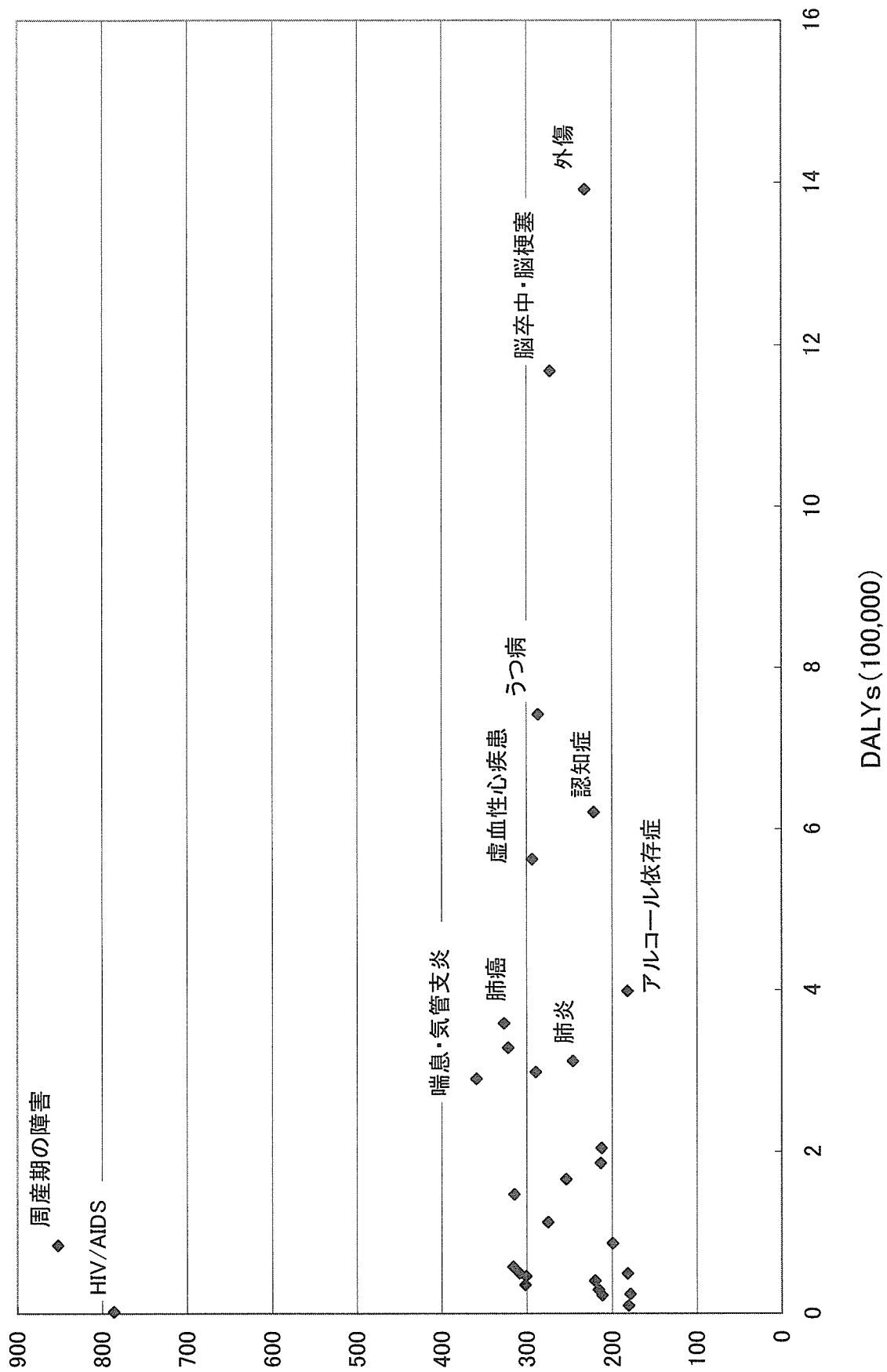
表 疾患別疾病負担および研究費

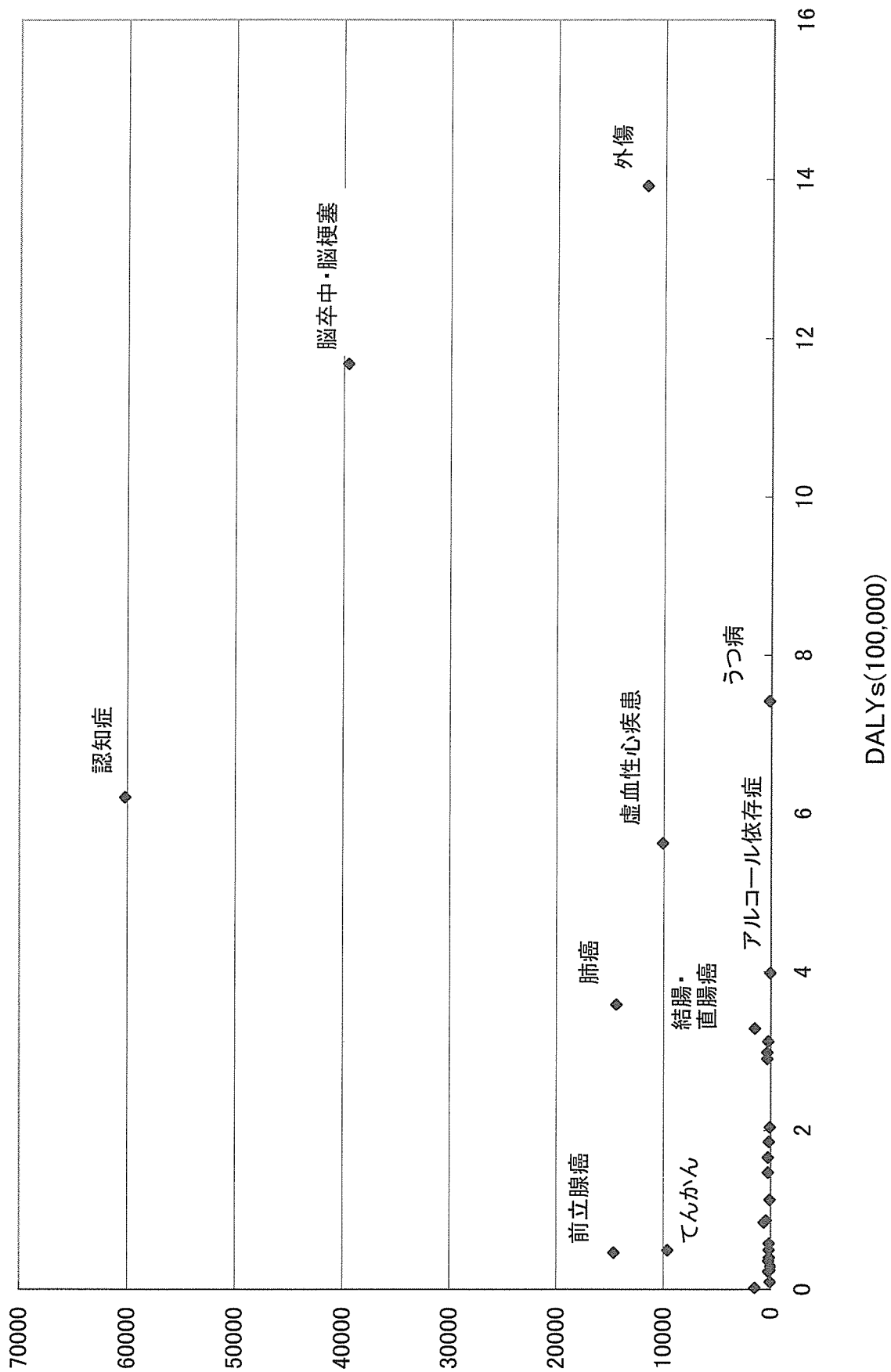
疾患	DALY	行政政策研究分野		厚生科学基盤研究分野		疾病・障害対策研究分野		健康安全確保総合研究分野		研究費総額 (X100万円)
		分野	研究費	研究費	研究費	研究費	研究費	研究費		
慢性閉塞性肺疾患	204177	36	94	71	212	413				
周産期の障害	84203	99	96	626	852	1673				
消化性潰瘍	29229	22	89	2	216	328				
肺炎	312265	49	77	242	246	614				
子宮癌	57688	24	193	159	316	693				
卵巣癌	49686	24	193	158	309	684				
脳卒中、脳梗塞、	1167984	43	253	39557	272	40125				
肺癌	358833	35	200	14409	327	14971				
前立腺癌	46055	25	211	14638	301	15174				
結腸・直腸癌	328435	25	387	1459	322	2192				
中耳炎	9595	20	74	41	181	316				
子宮頸癌	35595	25	193	220	302	739				
パーキンソン病	86713	34	220	452	199	905				
てんかん	49244	19	80	9610	182	9892				
喘息・気管支炎	289968	46	130	314	359	849				
結核	40281	31	76	147	220	474				
多発性硬化症	22507	32	80	219	212	543				
肝硬変	165713	20	317	255	254	846				
うつ病	742225	35	84	157	287	562				
外傷	1391865	38	188	11666	232	12124				
性感染症	24075	18	83	82	179	362				
統合失調症	185559	24	73	165	213	476				
虚血性心疾患	562451	27	743	10113	294	11176				
歯と口腔に関する疾患	112537	23	153	97	275	548				
糖尿病	298306	37	521	315	290	1163				
アルコール依存症	398535	19	73	47	182	321				
認知症	620780	30	179	60195	221	60625				
乳癌	147060	23	205	245	315	788				
後天性免疫不全症候群	2273	31	84	1455	787	2358				
その他	N.A.	365	2347	249210	4061	2559830				



科研費・総額(千万円)

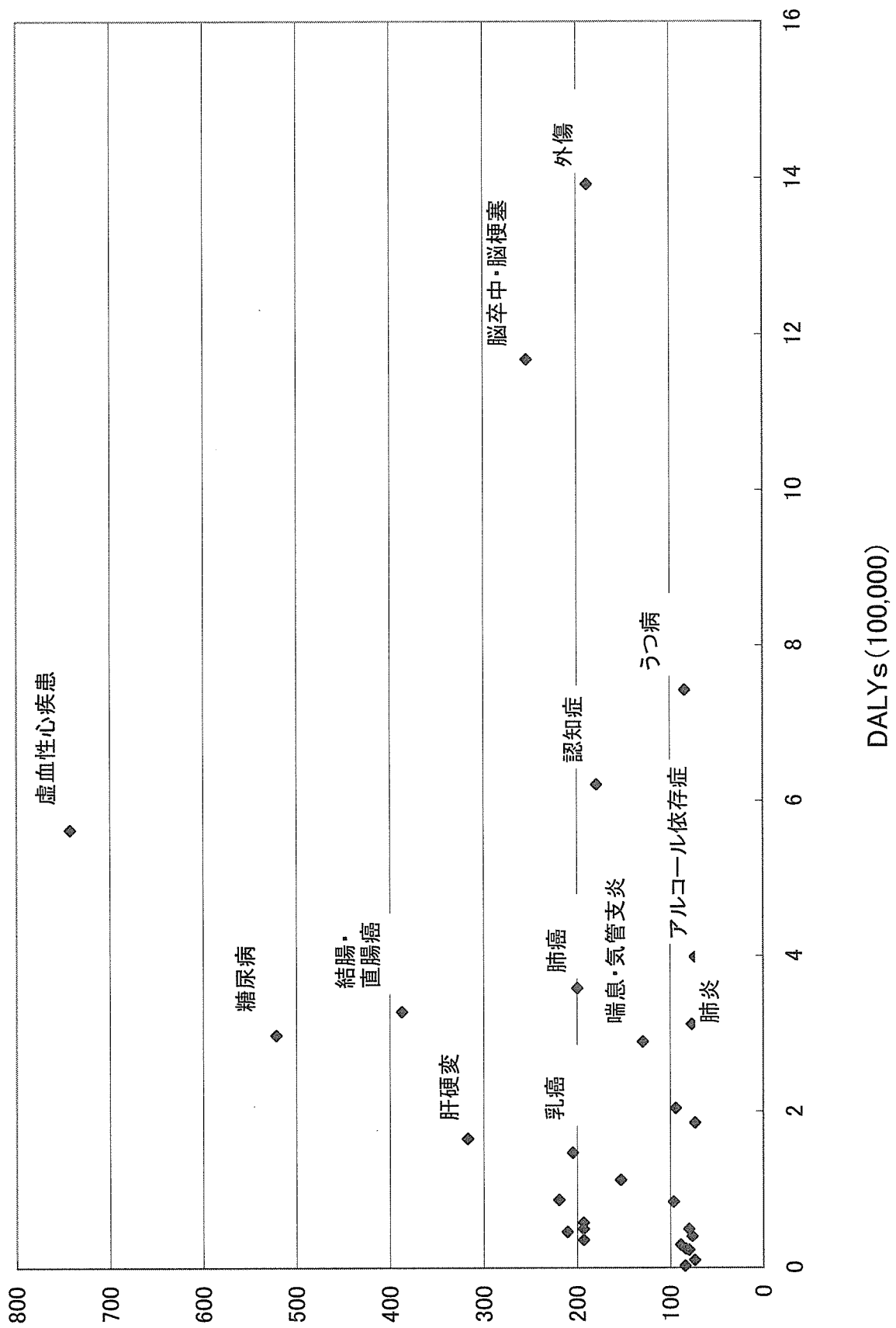
健康安全確保総合研究（百万円）



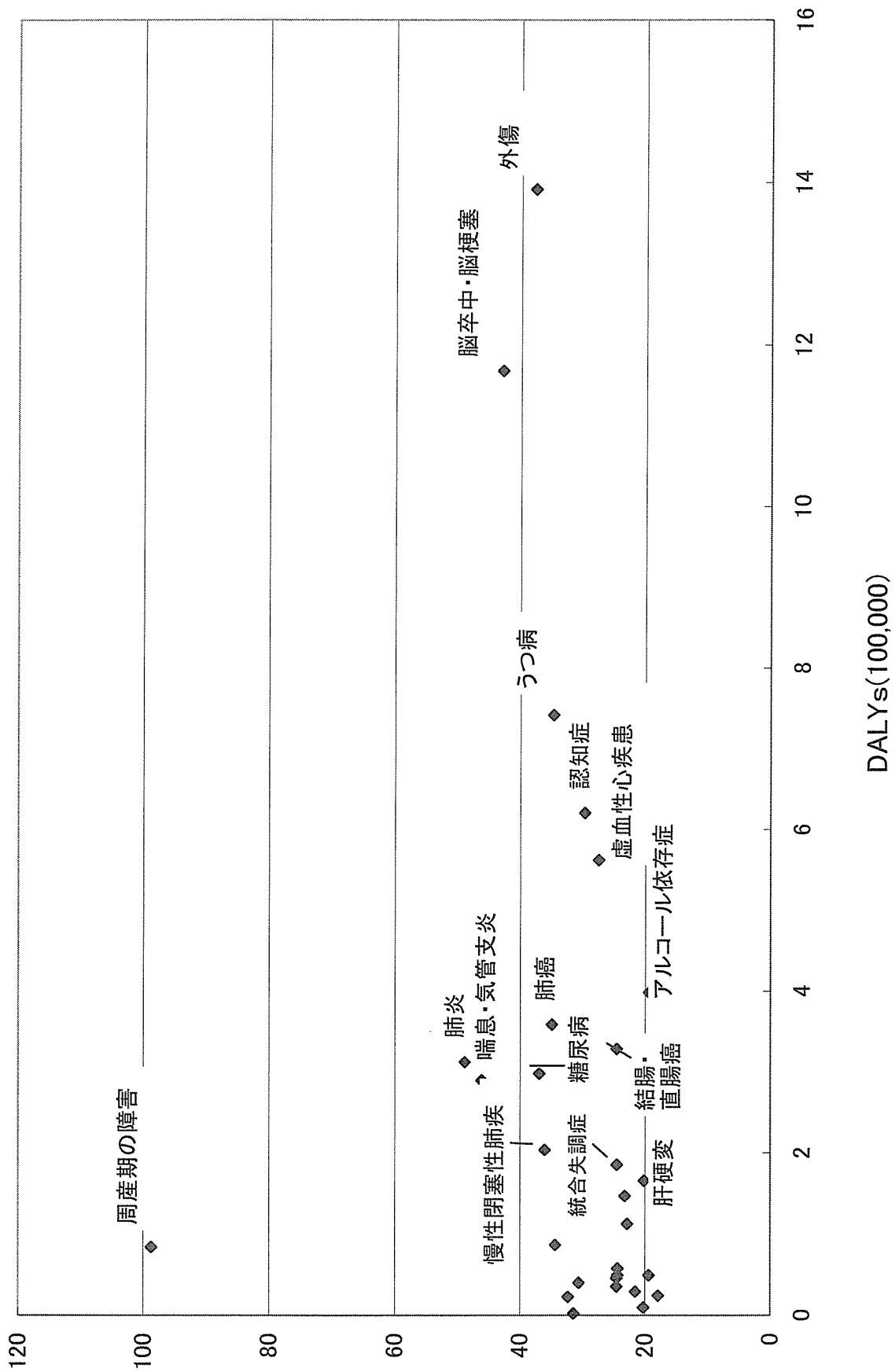


疾病・障害対策研究分野（百万円）

厚生科学基盤研究分野（百万円）



行政政策研究分野（百万円）



医学部寄附講座の現状について

主任研究者 佐藤 敏彦 北里大学医学部
研究協力者 星 佳芳 国立保健医療科学院
ジュリア ヨング 法政大学経済学部

研究要旨：

民間企業による大学医学部の寄附講座の実態を調査し、寄附講座の分野および寄付金額についての現状を知ることが目的とし、大学のウェブサイトから寄附講座の有無を調べ、その上で寄付金額等につき聞き取り調査を行った。その結果、寄附講座のある大学は全国 80 大学中、54 大学であり、寄附講座・寄附研究部門数は合計 155 講座（部門）であった。過半数は旧帝大に設置されていた。予算規模としては中央値が 1 億 2 千 500 万円であった。

A. 目的

民間企業による大学医学部の寄附講座の実態を調査し、寄附講座の分野および寄付金額についての現状を知ることが目的とした。

B. 方法

各大学のウェブサイトより寄附講座の現状を調査した。本年 2006 年（平成 18 年度）より開始予定の寄附講座はこれを「寄附講座あり」に含めた。ウェブサイト等の予定では平成 18 年 3 月 20 日時点で存続していることになっている講座も（平成 17 年度まで等）、企業側の方針転換などで既に運営を終了している場合が数例散見されたので（東京大学医科学研究所など）、研究室や研究活動が終了していることが確認された場合、それらは「寄附講座なし」と判断した。金額その他情報について、問い合わせ等による確認済みのものは「非公開」。ウェブ上に寄附金額だけが公開されていない場合は「記載なし」とした。

C. 結果

1. 全体の概要

寄附講座のある大学は全国 80 大学中、54 大学であり、寄附講座・寄附研究部門数は合計 155 講座（部門）であった（表 1）。

そのうち、旧帝大は 7 大学であり、寄附講座・寄附研究部門は 72 講座であった。順位別にみると、1 位が東京大学 35 講座であり、2 位は大阪大学 12 講座、3 位は名古屋大学 9 講座であった。旧帝大以外の大学は 73 大学であり、そのうち寄附講座・寄附研究部門のある大学は 47 大学、寄附講座・寄附研究部門数は 83 講座（部門）であった。

旧帝大を除く国公立大学法人立の大学医学部のうち寄附講座・寄附研究部門のある大学は 33 大学であり、寄附講座・寄附研究部門数は 58 講座（部門）であった。

国公立全体のみで結果をまとめると、寄附講座（部門）がある大学は 40 大学であり、寄附講座・寄附研究部門数は 130 講座（部門）である。

次に、私立大学についてであるが、寄附講座のある大学は 14 大学であり、寄附講座・寄附研究部門数は 25 講座（部門）であった。

寄附講座・寄附研究部門のない大学は、26 大学（内訳：国公立大学法人立 14 大学、私立大学 13 大学）であった。

(*以下、寄附講座・寄附研究部門をまとめて「寄附講座」または「講座」と表記する。)

2. 寄付総額の公開度について

ここでは寄付講座の公開度について調べた結果を示す。

今回の結果から、寄付総額について公開していない講座（今回の調査で寄付総額が不明または非公開だった講座を含む）は、155 講座中 80 講座であり、半数以上を占めていた。そのうち旧帝大は 72 講座中 22 講座であり、その他国公立大は 58 講座中 37 講座、私立大は 25 講座中 21 講座であった。

3. 国公立大学法人立と私立の違い

ここでは、国公立大学法人立と私立の違いについて示す。

全国に医学部は 80 大学あり、うち国公立大学法人立は 51 大学、私立大学は 29 大学である。寄付講座のある大学の割合は、国公立大学法人立は 78.4%であり、私立大学立は 48.3%であった。

4. 地域差の比較

表 2、表 3 に、地域ごとの寄付講座のある大学数と、寄付講座指数を示した。

その結果、北陸・東海の割合が多かった。寄付講座数は、その地域の企業数などの影響や、経済格差などの影響を受けることが考えられる。しかし地域間格差を是正する必要性については、議論の余地があると思われる。

表 2. 寄付講座のある大学数の割合

北海道・東北	4/9	44.4%
関東・甲信越	20/27	74.1%
北陸・東海	9/11	81.8%
関西	9/12	75%
中国・四国	5/10	50%
九州・沖縄	7/11	63.6%

* 地域ごとの大学リストは本報告書末尾に資料として添付

表 3. 地域ごとの「寄付講座指数（講座数/大学数）」割合

北海道・東北	13/9	1.44
関東・甲信越	67/27	2.48
北陸・東海	25/11	2.27
関西	28/12	2.33
中国・四国	10/10	1.00
九州・沖縄	13/11	1.16

5. 公開されている寄付総額の予算規模について

ここでは、寄付総額の予算規模について示した。

寄付総額が公開されている 75 講座全体の合計寄付金額は 101 億 2340 万円であり、75 講座全体の平均は 1 億 3498 万円であった。中央値を見ると、1 億 2500 万円である。

詳細についてみていくと、旧帝大では寄付講座 72 講座のうち寄付総額が公開されている 50 講座の合計寄付金額は、63 億 2650 万円であり、講座平均は 1 億 2650 万円であった。中央値は 1 億 2 千万円である。

次に、旧帝大以外の国公立大学では、寄付講座 58 講座のうち寄付総額が公開されている 21 講座の合計寄付金額は 31 億 9690 万円であり、講座平均は 1 億 5223 万円であった。中央値は 1 億 3660 万円である。

私立大学では、寄付講座 25 講座のうち、寄付総額が公開されている 4 講座の合計寄付金額は 6 億円であり、講座平均は 1 億 5 千万円であった。

6. 講座継続年数（寄付継続年数）

ここでは、寄付講座継続年数について示した。

寄付講座の運営期間が明確に公開されている 100 講座全体の合計期間月数は、4500 ヶ月であった。平均年数は 45 ヶ月であり、中央値 36 ヶ月である。

旧帝大では、寄付講座 72 講座のうち運営期間が明確に公開されている寄付講座 64 講座の合計継続期間（月数）は 2854 ヶ月であった。平均年数は 44.6 ヶ月であり、中央値は 36 ヶ月である。

旧帝大以外の国公立大学では、寄付講座 58 講

座のうち、運営期間が明確に公開されている 28 講座の合計継続期間（月数）は 1310 ヶ月であった。平均年数は 46.8 ヶ月であり、中央値は 46 ヶ月である。

私立大学では、寄附講座 25 講座のうち運営期間が明確に公開されている 8 講座の合計継続期間（月数）は 336 ヶ月であった。平均年数は 42 ヶ月であり、中央値は 36 ヶ月である。

D. まとめ

最後に、旧帝大、旧帝大以外の国公立大学、私立大学の順に、今回の結果についてまとめる。

1. 旧帝大

旧帝大の中では、東大の存在感が圧倒的に大きいことが伺えた。東大では、医学部、22 世紀医療センター、医科学研究所と 3 つのおもな寄附受け入れ先を擁し、35 講座、寄附総額 46 億 5750 万円であった。1 講座の寄附額平均は、約 1 億 3307 万円である。

講座数では、全国 2 位の大阪大学も 12 講座を擁するが、そのほとんどが寄附額を公開していないため、比較ができなかった。3 位の名古屋大学は 9 講座あるが、寄附金額を公開している講座は、8 講座であった。8 講座の合計寄附総額は 5 億 6900 万円であった。1 講座あたり平均寄附額は約 7112.5 万円である。京都大学は、寄附講座数が 4 講座であり、東大に比べて極端に寄附講座数が少ない結果であった。理由については、明確にできていない。

2. 非旧帝大の国立・公立大学法人立

京都府立医大や岐阜大学医学部では、寄附講座が 4 講座あり、産学連携の努力をしていることがわかった。網羅的に寄附金総額などを収集できれば、大学経営の視点からも意味のあるデータとなるであろう。

寄附企業については、地元の企業が特色ある講座を設立していた。行政からの寄附講座があることから、国公立大学法人立の医学部の特徴であると考えられる。

寄附額や寄附期間が公開されていない例が多いので、データの代表性・一般化の可能性は低いが、公開されている例だけでみたところ、旧帝大よりも寄附額・寄附期間ともに上回っていることが明らかとなった。

3. 私立大学

慶応義塾大学を筆頭に 14 の大学に 25 の寄附講座があった。しかし国公立法人立に比べて、明らかに数が少ない。私立大学では、特色をいかした産学連携が可能であることから、少ない原因を考える必要がある。

E. 考察

このような調査は、本来、国の機関が各大学に情報を提出させ、国家的な統計データとして収集し管理・統合し、常にアップデートすべき情報であると考ええる。その上で企業の開発担当や産学連携担当、大学側の研究推進担当課や産学連携担当課にとって有用なポータルサイトを構築し、全体の産学連携を促進するような支援が必須であると考える。

資料

今回の調査の問題点および改善が必要な点について、以下に示し、次回の調査の際の参考資料とする。

(1) 寄附総額情報の扱いについて

- 寄附金額の情報がウェブ上で公開されていないことが多い（寄附者の意向や企業秘密の部分があるのだろうか）。
- 業務報告や決算報告ですら秘匿されている場合もある。
- 企業側から見たら IR 情報として株主や投資家に提示すべき情報であると思うが、公開されていないことの方が多かった。
- 講座の存在自体がウェブ上で公開されていない例も数例あった（電話問い合わせで発覚）。
- 電話問い合わせでは寄附額その他の質問に

応じてくれないことが多かった（医学生・研究者として質問：助手として2名の医学部5年生を採用。＊「厚生科研の調査」である旨は伝えずに問い合わせを実施した。学術調査の一環である旨伝えていたら反応が変わったのだろうか？）。

- 依頼を文書で提出すれば返答するという対応をされた大学も2、3あったが、時間的に間に合わなかったので割愛した。
- 寄附講座の情報をとりまとめている窓口がどこか、事務の職員自体がわかっていないことが多かった（たらいまわしにされた挙句、「わからない」といわれた例が2例）
- 東北・関西の大学は対応が丁寧だった印象があった。

(2) ウェブサイトのデザイン・情報量の問題

- ウェブサイトで講座の情報が公開されていないところが多い。
- 大学の事務の組織名が複雑で、どこに問い合わせたらよいかウェブサイトから判断できない。
- 寄附講座に関することに限らず、全体的に医学部（ひいては大学）のウェブサイトが情報不足、欲しい情報がどこにあるのかわかりにくい設計になっている。ほとんどの大学のウェブでサイト内検索ができない。
- 専門家でない人（総務課その他の職員？）が独力で趣味で構築している印象がぬぐえないサイトも多々あり、多くの大学でウェブサイト構築予算の不足や大学の「顔」「広報・宣伝ツール」としてのウェブサイトの重要性があまり認識されていない印象をもった。

付録（当該領域参考資料を添付）

付録①調査結果エクセルファイル

地域別大学リスト

北海道・東北地区 [9 大学]

北海道大学
旭川医科大学
弘前大学
東北大学
秋田大学
山形大学
札幌医科大学
福島県立医科大学
岩手医科大学

関東・甲信越地区 [27 大学]

筑波大学
群馬大学
千葉大学
東京大学
東京医科歯科大学
新潟大学
山梨大学
信州大学
横浜市立大学
自治医科大学
獨協医科大学
埼玉医科大学
北里大学
杏林大学
慶應義塾大学
順天堂大学
昭和大学
帝京大学
東海大学
東京医科大学
東京慈恵会医科大学
東京女子医科大学
東邦大学
日本大学
日本医科大学
聖マリアンナ医科大学
防衛医科大学校

北陸・東海地区〔11 大学〕

富山大学
金沢大学
福井大学
岐阜大学
浜松医科大学
名古屋大学
三重大学
名古屋市立大学
金沢医科大学
愛知医科大学
藤田保健衛生大学

佐賀大学
長崎大学
熊本大学
大分大学
宮崎大学
鹿児島大学
琉球大学
産業医科大学
久留米大学
福岡大学

関西地区〔12 大学〕

滋賀医科大学
京都大学
大阪大学
神戸大学
京都府立医科大学
大阪市立大学
奈良県立医科大学
和歌山県立医科大学
大阪医科大学
関西医科大学
近畿大学
兵庫医科大学

中国・四国地区〔10 大学〕

鳥取大学
島根大学
岡山大学
広島大学
山口大学
徳島大学
香川大学
愛媛大学
高知大学
川崎医科大学

九州・沖縄地区〔11 大学〕

九州大学

講座名	寄附母体	合計寄附金額	期間	研究内容(ウェブサイト等より抜粋)
医療ネットワーク学	非公開	非公開	記載なし	以下の講座その他シンポジウム等公開講座を主催・実施 ・介護予防講座 ・病院ボランティアサポーター養成講座 ・医療決断サポーター養成講座
次世代低侵襲治療学講座	株式会社日立製作所	5千万円	平成16年4月1日～平成19年3月31日(3年間)	次世代低侵襲治療学本邦の国民の健康と福祉の向上に貢献するという目的から、臨床実施の面と新領域の医学教育を主眼とし、この領域では他に類のない研究教育システムを構築することで、世界の次世代低侵襲治療学研究教育拠点を目標とする。 具体的には、内視鏡手術トレーニングセンターによる以下の教育カリキュラムの実施・支援・研究を行う ・スタンダードコース ・ボックストレーナー・VRシミュレーター・Live Tissueを用いて、刺離・縫合・結紮など多彩な手技の習得を目標にしています。 日本内視鏡外科学会技術認定制度後援実技セミナー2点が取得できます。 ・アドバンスコース ・エキスパート(54名のFacilities)による指導 ・泌尿器科・外科(一般・大腸・呼吸器) ・産婦人科・整形外科
ナノバイオメダイクティクス講座	ベンタックス株式会社	9千万円	平成17年5月1日～平成20年3月31日(2年11ヶ月)	医学本邦の国民の健康と福祉の向上に貢献するという目的から、臨床実施の面と新領域の医学教育を主眼とし、この領域では他に類のない研究教育システムを構築することで、世界の医学の教育研究教育拠点を目標とする。(本講座では近年著しい進歩を遂げているナノテクノロジーを、バイオテクノロジーやコンピュータサイエンスさらにはロボット工学における最先端の技術と融合した新しい工医学の創成を目指しています。)
糖鎖治療学講座	タカラバイオ	非公開	平成14年9月1日から平成17年8月31日の3年間(更新)	1) 複合糖質の精緻構造の解明 2) 糖鎖構造の改善による生理活性物質の機能高度化 3) 糖鎖遺伝子の機能解明 4) 糖鎖遺伝子-ウイルスベクター系の開発 5) 糖鎖遺伝子の発現制御による病気の治療への応用 癌特異的免疫療法の開発
癌ワクチン療法学講座	非公開	非公開	平成14年12月1日～平成19年11月30日	本寄附講座では、遺伝子治療に関するトランスレクション・リサーチの充実を図り、下記のような研究開発を行います。
臨床遺伝子治療学講座	第一製薬株式会社	非公開	記載なし	(1) 生活習慣病に対する新規遺伝子治療の開発 (2) 各種難治性疾患に対する新規遺伝子治療の開発 (3) 安全で効率の高い新規遺伝子導入法の開発 (4) 新規治療用遺伝子の探索と臨床応用

樹状細胞制御治療学講座	非公開	非公開	平成15年6月1日～平成 20年5月31日	強力な抗原提示細胞である樹状細胞の制御によって、ウイルス肝炎、肝癌、消化器癌に対する免疫細胞療法の確立と臨床応用を目指す。 1) 肝炎、癌における免疫病態の解明、 2) 肝炎、癌患者に対する免疫細胞機能修飾方法の開発、 3) 癌患者、肝炎患者に対する樹状細胞ワクチンの開発と応用
視覚情報制御学講座	株式会社トブコン	1億5千万円	平成16年5月～平成21 年3月末(4年11ヶ月間)	医学系研究科の感覚器外科学(眼科学)講座および医用制御工学講座(感覚機能形成学分野)と連携を図りつつ、透明組織の光学的特性の評価及びその機能向上のための研究を行う予定です。現在までに培った実績を活用し、医学工学連携で理論と臨床要求を深く追求した研究で実践的、先進的な検査・診断法と医療機器研究に取り組み、眼科学の発展、特に、視覚の質の向上に寄与することを目指しています。
先端移植基盤医療学講座	ノバルティス ファーマ株式会社	2億5千万円	5年間(平成17年1月1日～ 平成21年12月31日)	本寄附講座では、移植医療における免疫抑制剤の効果と副作用に直接関連する遺伝子を検討し、移植腎に対する免疫抑制剤のオーダーメイド医療を目指すとともに、移植腎に対する遺伝子治療の臨床研究を行い、移植腎の長期生存率を向上させます。また腎臓移植の研究によって得られた成果を、全ての臓器移植に応用することを目指します。
生体機能補完医学講座	株式会社アミノアップ化学	1億5000万円	2005年1月より3年間	先ずは、補完医療として、皆さんが最も関心のある機能性食品(いわゆる健康食品)を取り上げたいと考えております。現在多くの健康食品がテレビ、新聞、雑誌などを通じて、紹介され販売されております。しかしながら、そのほとんどが有効であるといえず、むしろ有害な副作用(アレルギー)が報告されています。皆さんが服用している薬品と健康食品との相性が悪い(ある種の健康食品が薬品の作用を増強したり、減弱させたりする)場合があります。中には重篤な合併症が出ることも報告されております。こうした中で、一般の方や患者さんが果たしてこの何を飲んだらいいのか迷っております。しかし、実際には、友人や家族の人から勧められて飲んでいて、それが現状かと思えます。 今後は、われわれの講座は阪大病院ならびに関連病院にて、健康食品を用いた臨床試験を行い、少しでも多くのエビデンスを出していきたいと考えております。
漢方医学講座	株式会社ツムラ	非公開	平成17年4月1日～平成 20年3月31日	漢方医学の基礎と臨床であり、具体的には以下の研究領域が挙げられる。 ・生活習慣病(糖尿病、肥満、高血圧、骨粗鬆症など) ・更年期障害(男性、女性共) ・痴呆 ・癌 ・疼痛に対する治療、 および術後の不定愁訴・QOLの改善・現代医薬による副作用の緩和
毛髪再生医学講座(予定)	アテランス	未発表	記載なし	記載なし

微生物病研究所寄附 研究部門	疾患糖鎖学研究部門(予定)	生化学工業株式会社	1億2,000万円	2006年4月1日～2009年 3月31日の3年間	1. 糖鎖遺伝子を用いた構造の改変(糖鎖リモデリング)による 高度機能化およびその制御(特に増殖因子受容体の制御とそ の応用)2. 糖鎖遺伝子の機能解明および糖鎖変化を利用した ハイオマーカーの開発 3. 炎症性疾患、がん等における糖鎖 の役割の解明とこれら疾患の治療への応用
微生物病研究所寄附 研究部門	分子生物学寄附研究部門	オリエンタル酵母工業株式会 社	記載なし	記載なし	本研究部門(今本教授)は、Invitrogen社のMultisite Gateway(msGW)DNAクローニングに必要な6種類attRゲノムの 自由行使権を保持しており、これを用いた複数種cDNAの生 細胞への同時導入用ベクターの構築と、これらの生理的発現 量の制御技術開発を行っている。即ち、 1) 生細胞へ迅速・確実(ハイスループット)に複数種蛍光標識 遺伝子を導入するためのmsGWカセットDNAベクターの構築、 2) 生理的発現量に適正なプロモーター・IRES類のシグナル開 発、及びハイオマイゼンジングのための蛍光タンパク質接続の改 良・開発、 3) 導入遺伝子の細胞内発現量の制御技術開発、及び細胞内 の微量蛍光タンパク質の定量技術開発 4) 細胞染色体上の特定部位への遺伝子導入による安定で優 れた形質転換細胞の創出、 の4課題を柱に研究を進めている。
蛋白質研究所寄附 研究部門	疾患プロテオミクス(shimadzu)寄 附研究部門(予定)	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし
京都大学医学部(4)	疫学研究情報管理学講座	武田薬品工業株式会社	非公開	平成13年10月から平成18 年9月まで	EBM共同研究センターと連携して、疫学データのインターネッ トを介した登録・管理・解析法の開発研究と、実際に臨床各科 および社会健康医学系専攻が関わる(臨床)疫学的研究で収 集されるデータの登録・管理・解析を支援する。
	探索臨床腫瘍学講座	大腸薬品工業株式会社	非公開	平成15年10月から平成20 年9月まで	探索医療センターと連携して、新しいがん治療法開発のため の探索臨床を安全かつ効率的に実行する臨床システムに関し て研究する。さらに各研究分野で開発された多数の新しいがん 治療法の臨床試験をそのシステムを用いて実行に移すことによ り、当該疾患の治療成績の向上・予後の改善が認められるかど うかを検証する。
	免疫ゲノム医学講座	小野薬品工業株式会社	2億5千万円	平成17年4月から平成22 年3月まで	免疫細胞生物学、ゲノム医学研究センター、血液内科、移植免 疫学、臨床免疫学並びに臨床各科の腫瘍治療プロジェクトと連 携して、免疫ゲノム医学の基礎的な研究を行うと同時に免疫制 御物質の臨床応用を目指した免疫ゲノム医学研究の中心的な 内容について大学院レベルの教育を行う。
再生医学研究所	組織分化制御学研究部門	住友電気工業株式会社	非公開	平成16年10月1日～平成 20年9月30日	本部門は、組織の形態分化を促進・制御するエピモルフィンに 関する研究を深化させることを目的として設立された。

組織工学(日立メディコ)寄附講座	株式会社日立メディコ 会社J-TEC	株式	7400万円	平成15年4月1日～平成18年3月31日(3年間)	本講座は、近年、欧米を中心に注目を集めているTissue Engineering(組織工学)と呼ばれる新たな学問領域に対して、基礎研究と臨床応用の橋渡しの役割を担うものとして位置づける。具体的にはヒト正常組織を培養増殖し、これらを用いたより高性能な人工臓器及び人工組織を構築することを目的としている。すなわち、ヒト正常細胞の大量培養方法の確立や、人工臓器作製及び移植に用いる細胞外マトリックスの構築、さらには移植方法の提案を研究範囲とする。これらの研究を通じて、新しい人工臓器及び人工組織を開発し、次世紀の移植医療に貢献しようとするものである。
プロテアーゼ臨床応用学講座	株式会社グッドマン		4000万円	平成16年4月1日～平成18年3月31日(2年間)	本講座は、器官制御内科学(循環器内科)と産婦人科の連携にて設立されたプロテアーゼの臨床応用を目的として、1)高血圧、特に妊娠高血圧に対するプロテアーゼの治療への応用、2)ステント再狭窄予防のための新規Drug Eluting Stent(DES)の開発、3)虚血性心血管疾患に対する細胞移植による再生医療研究を主な研究内容としている。特色としてトランスジェニックウ・カイコを用いた蛋白大量産生系や各種血管新生アッセイ系、伸展刺激装置を用いた疑似生体での細胞解析システムなどの特殊技術を有し、従来の医学研究の遂行だけでなく、大学発の知的シーズの産業技術への転化をも目指している。
画像情報外科学	ジョンソン・エンド・ジョンソン		6000万円	平成16年4月1日～平成18年3月31日(2年間)	近年、内視鏡下手術が急速に発展しているが、一方で医療事故の報道が相次ぎ、医師の技術や経験が問題になっている。また、2次元(疑似3次元)画像を身ながら行う制約を補完する技術もいまだ発展途上である。本講座は、名古屋大学附属病院において実際に消化器領域の内視鏡下手術を行う一方で、より安全で高度な内視鏡下手術の発展をめざして、画像情報技術の進歩を外科手術に応用する研究開発と、内視鏡下手術技術の教育、トレーニングシステム確立を目的としている。本学の関連講座のほか、他研究機関、関係企業と連携して、診療、研究を進め、先端的な医療関連産業の発展に寄与することも目指している。
腎不全治療システム学講座	バクスター		1億5千万円	平成17年2月1日～平成22年1月31日まで(5年間)	末期腎不全透析患者数は23万人に達し医療経済に大きな影響を与え、透析患者のQOLを改善することは急務といえる。腎代替療法に占める腹膜透析の比率は先進国のなかでも最低で4%を占めるにとどまっており、殆どが血液透析に頼っている。本寄附講座は、主として保存期から腎代替療法までの総合的腎不全治療システムの構築と普及を推進するため設立された。保存期治療のシステム開発のみならず普及の遅れている腹膜透析療法の構築と標準化のための教育システムまた長期腹膜透析の問題点である腹膜線維化のメカニズム、予防の研究に取り組む。さらに、関連施設の協力の下、保存期から透析療法における臨床問題をテーマに多施設共同臨床研究を展開することを旨としている。

細胞治療学講座	ハイメディック	4000万円	平成16年11月1日～平成18年10月31日(2年間)	<p>本寄附講座は、『再生医療』の臨床応用を早期に実現化させるためのシステム(技術・機器・設備)の開発を目的として開設された。『再生医療』とは、ヒトの体の一部を外郭で培養・再生することで、欠損部位の修復や代替、創傷の治療、腫瘍治療のための免疫賦活、美容・整形などを行う新しい医療技術である。このような先端医療を早期に多くの患者さんに提供するためには、安全性を充分に考慮したCell Processing Center (CPC)の充実に、コストパフォーマンスの良い技術・装置の開発が重要である。本講座は、ヒト細胞の培養技術をシステム化するための研究・開発を通じ、先端医療の提供と、日本の再生医療の産業化に大きく貢献しようとするものである。</p>
循環器ゲノム情報応用診断学講座 株式会社興和	株式会社興和	1億円	平成16年6月1日～平成18年5月31日まで(2年間)	<p>本講座は、主として、以下の教育・研究を目的として設置された。(1)大規模集団を対象とした網羅的候補遺伝子関連解析による心筋梗塞・冠動脈疾患をはじめとする生活習慣病 (common diseases) の遺伝子リスクを同定する。既にconnexin37を始め4個の心筋梗塞遺伝子リスクを発見している。これらは国内外の replication によりその信頼性が確認されつつあるが、さらに複数の信頼性の高い遺伝子リスクの発見に努める。(2)心筋梗塞・冠動脈疾患を対象として、全ゲノム罹患同胞対連鎖解析により新しい疾患感受性遺伝子(座)の同定を図る。(1)、(2)及び遺伝因子-環境因子相互関係の解析により生活習慣病について包括的リスク診断システムを開発しオーダーメイド予防に貢献すると共に、新しい遺伝子リスク診断ビジネスモデルを知的財産として確保する。また簡便・安価な遺伝子診断用マイクロチップ電気泳動システム機器の開発を進める。(3)in-vivo及びin-vitro実験研究により心血管系薬の新たなpleiotropic effectを発見及びその分子機序を解明し、新規治療法を提案する。</p>
環境皮膚科学講座	株式会社興和	記載なし	記載なし	<ol style="list-style-type: none"> 1.接触皮膚炎の原因究明・検査方法の確立、アレルギーの同定・作成、診断、治療、 2.アトピー性皮膚炎の原因の同定、治療とスキンケア法の確立、低刺激、低アレルギースキンケア製品の開発、 3.光アレルギー性皮膚炎のモデル動物作成、薬剤間の交差反応の確認、 4.痒みのメカニズムの解明、治療、 5.職業性皮膚病の原因究明、交差反応物質の確認、再発予防対策、労働環境の改善、 6.過敏性肺臓炎のモデル動物作成、皮膚での原因確定法の開発

脳神経外科学教室に蓄積された研究成果、特に、遺伝子治療、細胞療法に関する研究成果を実地医療、産業化に繋ぐための仕事、いわゆるトランスレーションショナル研究が、本ハイオ医療学講座の活動の大きな目的です。また、そのような研究活動を行なって行く中で得られた知見を元にした研究を進めるとともに、現構成員の佐藤、中原が今まで培ってきたサイトカインを中心とした基礎的な研究成果を先端医療に繋げるための基礎的な研究も行う予定です。	平成16年10月1日～平成19年3月31日まで	記載なし	3千万円	東レ株式会社	ハイオ医療学講座	東レ株式会社	7500万円	平成17年 4月～平成20年 3月 (平成14年4月～平成17年3月) (平成11年4月～平成14年3月) (平成8年4月～平成11年3月)	本講座は、「薬剤疫学」を我が国で発展させる基礎を築くべく寄付講座として1993年に設置され、 1. 英国の処方イベントモニタリング(Prescription-Event Monitoring, PEM)類似の観察的コホートスタディを我が国で実施する可能性を探るとともに、 2. 臨床データベースを用いた薬剤使用実態解析および 3. 薬剤の社会的有用性を評価するための方法論の研究 4. 多施設にわたる臨床的疫学的研究のコーディネーションを行うことを目的とする。
環境医学研究所寄附 寄附研究部門	生体情報計測・解析(スズケン) 寄附研究部門	株式会社スズケン	7500万円	株式会社スズケン	生体情報計測・解析(スズケン) 寄附研究部門	株式会社スズケン	165百万円 (207百万円) (180百万円) (135百万円)	平成17年 4月～平成20年 3月 (平成14年4月～平成17年3月) (平成11年4月～平成14年3月) (平成8年4月～平成11年3月)	本講座は、「薬剤疫学」を我が国で発展させる基礎を築くべく寄付講座として1993年に設置され、 1. 英国の処方イベントモニタリング(Prescription-Event Monitoring, PEM)類似の観察的コホートスタディを我が国で実施する可能性を探るとともに、 2. 臨床データベースを用いた薬剤使用実態解析および 3. 薬剤の社会的有用性を評価するための方法論の研究 4. 多施設にわたる臨床的疫学的研究のコーディネーションを行うことを目的とする。
東京大学(35)	医学部寄附講座(11)	薬剤疫学	165百万円 (165百万円) (165百万円) (150百万円)	株式会社ツムラ	漢方生体防御機能学(ツムラ)	株式会社ツムラ	165百万円 (165百万円) (165百万円) (150百万円)	平成17年 7月～平成20年 7月 (平成14年7月～平成17年7月) (平成11年7月～平成14年7月) (平成8年7月～平成11年7月)	近年、欧米では、西洋医学に伝統医学やその他の代替療法を組み合わせた統合医学が盛んです。日本は西洋医学の先進国であると同時に、漢方医学をはじめとした東洋医学という長い年月をかけて築かれた伝統医学を持ち合わせています。当研究室は西洋医学を基礎として、それに伝統ある東洋医学を融合させることで新しい治療の開発を目指しています。

角膜組織再生医療(アムニオテック株式会社アムニオテック)	60百万円 (90百万)	榊17年 6月～榊20年 5月 (榊14年6月～榊17年5月)	、臨床応用可能な角膜の再生を目標に、角膜の内皮、上皮、実質層の再生医療に関する研究を中心に進めています。また一部で眼科・角膜グループとともに角膜の移植免疫に関する研究も行っています。
血管再生医療(第一製薬)	150百万円	榊14年 7月～榊19年 6月	近年、遺伝子治療や再生医療といった新規治療の実現を目的に、大学や研究機関で蓄積された基礎的な研究をヒトに応用するトランスレーショナル・リサーチの重要性が大きく定着しており、東京大学においても、現在、材料学・組織工学を基盤とした血管・骨・軟骨・角膜・神経、皮膚などの組織再生とその臨床応用を目指した研究テーマが検討されています。今回の寄付講座では、血管再生の観点から、血管新生による組織再建や再生臓器への微小循環血行付加の技術の検討を行い、その臨床応用を目指す研究テーマが取り上げられました。今後、その研究を通じて、血管新生による組織再建を可能にする新たな血管再生療法の確立、血管再生療法の発展により組織工学的な手法で再生された臓器に対する微小循環血行付加技術の確立が期待されています。
骨・軟骨再生医療	40百万円 (90百万円)	榊17年 7月～榊19年 6月 (榊14年 7月～榊17年 6月) 発	<ul style="list-style-type: none"> ・骨・軟骨分化を簡便・性格・非侵襲的に検出するシステムの開発 ・骨・軟骨分化に必要な十分なシグナルの決定 ・骨・軟骨の細胞シート培養法の開発 ・血管新生をともなう骨誘導の法の開発 ・非ウィルス性遺伝子導入法の開発 ・再生骨・軟骨の作製と移植
造血再生医療	24百万円 (90百万)	榊17年9月～榊18年8月 (榊14年9月～榊17年8月)	記載なし
富士ソフトABC軟骨・骨再生医療	90百万円	榊17年11月～榊20年10月	<ul style="list-style-type: none"> ・間葉系組織の成人幹細胞に関する細胞生物学 ・軟骨・骨再生における新規足場素材の開発 ・再生組織への三次元形態付与方法の開発 ・生体内における軟骨・骨再生組織の動向の評価 ・軟骨・骨再生組織の臨床試験と医療導入
腎臓再生医療	90百万円 (90百万円)	榊17年11月～榊20年10月 (H14年11月～H17年10月)	腎臓再生医療講座は東京大学医学部付属病院特殊診療部の一つである、テイソンエンジニアリング部 (http://square.umin.ac.jp/te/)の創設に伴い設置された寄付講座です。入院棟B8階に設けられたGMP対応のセルプロセッシングセンターを中心に、腎臓再生の臨床応用およびそれに向けた基礎研究を行っています。再生医学研究には臨床医学、生理学、薬理学、材質工学等の総合的な観点が必要であり、我々は学外との積極的な共同研究をベースに先端的な研究に挑んでいます。